

世界一短い文芸

# 「俳句」を作ろう

俳句は子どもから大人まで誰にでも作ることができる17音の短い文芸作品です。

俳句を作ろうとすると、どこかに出かけたり、何かを見たり、食べたりする時に、今まで気が付かなかったことに気が付くかもしれません。

俳句を通して、自然やものごとを観察する習慣ができることで、感性が磨かれるといわれています。



## 俳句のルール

### 基本のルール

「季語」：春・夏・秋・冬の季節の言葉を1句に1つ入れる。

「5・7・5のリズム」：文字の数ではなく音の数。

かみこ なかしち しもこ  
上五・中七・下五

5・7・5は、上から順に

「上五」「中七」「下五」といいます。

(例) 古池や蛙飛びこむ水のおと

## 作るポイント

### 「季語」の見つけ方

季節を表す季語は、「歳時記」という本に載っています。

また、昨年度に市内小・中学生に配布した「子ども俳句手帳」にも載っています。

明るい、楽しい気持ちを表す季語や悲しい、暗い気持ちを表す季語など自分の気持ちにあう季語を使いましょう。



## 季語が実際の季節とずれる

イメージしている季節と季語がずれることがあります。

これは季語の区切りが次のようになっているからです。

春 立春(2月4日)から

夏 立夏(5月5日)から

秋 立秋(8月7日)から

冬 立冬(11月7日)から

※( )内の日付は今年の日付です。

例えば、西瓜は夏に食べますが、8月上旬からは「秋」となるため、西瓜は秋の季語となるのです。

## 音の数え方

俳句は「5・7・5」の17音できています。

言葉の文字数ではなく音で数えます。

① 小さな「や・ゆ・よ」(拗音)

…前の字と合わせて1音

(例) 恐竜(きょうりゅう) 4音

② 小さな「ア・イ・ウ・エ・オ」

…前の字と合わせて1音

(例) カフェオレ(カフェオレ) 4音

③ 小さな「っ」(促音)

…それだけで1音

(例) 絵日記(えにっき) 4音

④ 音を伸ばす「ー」(長音符)

11音に数える

(例) オルゴール(オル・ゴ・ール) 11音

次の言葉は何音か考えてみよう。

① 入学

② オットセイ

③ チョコレート

(答え: ①4音、②5音、③5音)

## 簡単な作り方

① 五感(見る・聞く・嗅ぐ・味わう・触る)を使って、まわりのものをよく観察してみよう。

もしかすると、そこにはないけど思いつくもの(ひらめき、想像)もあるかもしれません。

② 観察して見つけたものや感じたことをメモしよう。

③ メモした言葉の中から、季語ではない5音の言葉を見つけて、下五にしよう。

(例) 腕時計

④ それはどんなものですか?どんな形をしていますか?何色ですか?

よく観察して中七を作ろう。

(例) 中七

皮のベルトの腕時計

⑤ 上五に季語をつけると完成です。

(例) 上五

汗まみれ皮のベルトの腕時計

俳句を作ることに慣れてきたら、自由に作ってみよう。

## 上手に作る

### 「切れ字」を使ってみよう

切れ字とは、名詞や動詞のあとにつける助詞のことで、「や」「かな」「けり」があります。

これらの言葉を使うとより俳句らしくなります。

①「や」

(例) 閑かさや岩にしみ入る蟬の声

②「かな(哉)」

(例) さまごまのこと思ひ出す桜かな

③「けり」

(例) 道のべの榎は馬に食はれけり

※切れ字は1句に1つだけ使う。

## おわりに

今回は簡単な俳句のルールや作り方のひとつを紹介しました。

知っているようで知らなかったルールなどもあったのではないのでしょうか。

家の中や窓の外などを見回してみると、俳句の種がたくさんあります。

例えば、道行く人や毎年同じ時期に咲く花など、自然や日常をよく観察してみると、今まで気づかなかったいろいろなことに気がつくと思います。

自然の移ろいや、人の気持ちを知らうとすることで、日常が豊かになるのではないのでしょうか。

観察して気づいた5音の言葉や7音の言葉を集めて、自分の俳句を自由に作ってみてください。



## 芭蕉翁献詠俳句募集中!

詳しくは広報いが5月号または市ホームページをご覧ください。



### 【問い合わせ】

文化交流課

☎ 22・9621 FAX 22・9619

✉ bunka@city.iga.lg.jp